

第一生命「サラリーマン川柳コンクール」過去10年間第一位作品

平成22年度(第24回)	久しぶり～ 名が出ないまま じゃあまたね～	シーゲ
平成21年度(第23回)	仕分け人 妻に比べりゃ まだ甘い	北の揺人
平成20年度(第22回)	しゅうち心 なくした妻は ポーニョポニョ	オー マイ ガット
平成19年度(第21回)	「空気読め!!」 それより部下の 気持ち読め!!	のりちゃん
平成18年度(第20回)	脳年齢 年金すでに もらえます	満33歳
平成17年度(第19回)	昼食は 妻がセレブで 俺セルフ	一夢庵
平成16年度(第18回)	オレオレに 亭主と知りつつ 電話切る	反抗妻
平成15年度(第17回)	「課長いる?」 返ったこたえは 「いいません!」 ごもっとも	
平成14年度(第16回)	タバコより 体に悪い 妻のグチ	- 小心亭主 -
平成13年度(第15回)	デジカメの エサはなんだと 孫に聞く	浦島太郎

第25回

サラリーマン川柳コンクール

募集開始



由倉労組発行
発行責任者
加藤賢一
栃木県栃木市
藤岡町甲1730
TEL
050-3511-3720
FAX
0282-62-5420

レーバernet日本を知ってますか
レーバernet日本は、労働者の権利を守るために、インターネットを活用した労働運動の情報ネットワークです。ウェブサイトを一度覗いてみてください。

第一生命保険が主催する第25回目のサラリーマン川柳コンクールの募集が始まった。今年「サラリーマン」25周年を記念して、映画『サラリーマンNEO 劇場版(笑)』との連動プロモーションとして行われる。また、過去の優秀作品60句の中から投票によりベスト・オブ・ベストを選ぶ「サラリーマン総選挙」もあわせて実施する。

サラリーマン川柳コンクールは、全国のサラリーマンはもちろんだら、OL、主婦、自営業の方などから、日常の中での一幕を描いた5・7・5の川柳では、第一生命のホーム

わたしは好きなものにならぬ。犬に言うなよ。俺に言え。どうも最近、亭主よりペットの犬のほうが大事にされているような気がしてならないが。

こんなのはどうです。「体重計 踏む位置ちょっと変えてみる」やせたいと思いつつ食べてしまふ。踏む位置を変えたつて体重が変わるわけはないのだが、人間のサガですかね。

身につまされる一句「何になる? 子どもの答えは 正社員」哀愁が漂いますねえ。

非正規労働者の割合が

ページ特設サイトから60句を見ることができ、投票もできる。テーマ別にまとっており、上司・部下編、仕事・一般編、通勤・アフター5編、パソコン・携帯電話編、夫婦・家庭編、エコ編、育児篇などジャンルも多彩、楽しんで投票もしたらどうでしょう。

また、たまには、右脳を使う頭の体操で、ニヤツとしたり、クスツとする事ができる一句をひねり出して応募してみてください。

増えて、社員よりよほど業務に精通しているパートがいたりして「クレームも 社員じゃわからんパート出せ」こんな場面が実際にありそうですねえ。

「最近では ケータイ無いと 字が書けず」実感。テレビのクイズ番組で読むのはどうにかなるが、書かされたらどうなってしまうんだらうか。

「円満は 見ざる言わざる 逆らわず」亭主関白などという言葉はすでに死語。これが夫婦円満の秘訣か。

がんばって一句ひねり応募してみてください。

宮城谷昌光は昭和20年生まれ。歴史小説家、古典中国を題材にした歴史小説を数多く出版している。宮城谷昌光は、小説を書くにあたって、資料を徹底的に読み込み、そして調査し、その上に立つ想像力で、魅力的な人物を描き、多くのファンを得ている。

三国志は魏・呉・蜀の三国時代をテーマにした読み物として、多くの作家やNHKの人形劇、横山光輝のマンガなどでも取り上げられてきた。私たちがなじみの三国志で

去る10月1日(土)佐野市中央公民館において田中正造没後百年記念事業を進める会の結成大会が開催された。田中正造は1913年9月に佐野市船津川で胃がんのため亡くなった。来年は百忌、再来年は没後百周年にあたる。そこで2年がかりで市民が中心になって田中正造の顕彰を行い、その思想を現代に活かしていく事業を行おうとするもの。

結成大会の記念講演で

は、劉備や、関羽、張飛といった英雄やスーパーヒーローの活躍する物語として描かれてきた。しかし、この宮城谷昌光の三国志には、英雄やスーパーヒーローは登場しない。宮城谷昌光は資料を納得いくまで読み込み、歴史にもとづいて、失敗や決断をする人間を描き切るうとする。そうした人間描写に深みや凄味があること、それが宮城谷文学の魅力であり、多くの人を魅了するものになっている。

月刊「文芸春秋」にも連載中の本書は、単行本として10巻まで出版されており、文春文庫でも第6巻まで刊行されている。内容といい、分量といい手強いので、読むには相当な気力が必要であるが、辞書を引きながら読むという小説の読み方の楽しさを味わうことができるだろう。いつ完結するのか皆目わからないが、自分が生きていくうちに、この小説をあと何回読むことができるのだろうか。繰り返し読んでみたい小説である。

田中正造没後百年記念事業を進める会結成大会開催

進める会結成大会開催

は、菅井益郎国学院大学教授が「足尾・水俣・福島」と題して講演。福島島の放射能汚染について調査する中で「これは現代の谷中村ではないか」との思いを強く持ち、足尾鉍毒事件と福島原発事故の類似性、そして田中正造の鋭い文明批判、警告について講演した。

進める会では2年後に「田中正造未来への大行進」など多彩なイベントを計画しており、実行委員を募集している。